

みんなdeスポーツ！ わが町の取り組み



鳥取県からは、県内の知的障害特別支援学校の取り組みと、肢体不自由者の保護者から広がった余暇活動の取り組みを紹介する。

県内全ての知的障害特別支援学校高等部の生徒を対象とした交流大会には、9月上旬に開催する「5校交流会」と、11月下旬の「部活動交流会」がある。

5校交流会は高等部生徒全員が参加し、陸上記録会かゲーム要素の高い屋内での交流会のいずれかを選ぶ。陸上では定番の1000メートル競走をはじめ、800メートル競走、ソフトボール投げなどに挑戦する。特に、代表チームによるリレー競技は各校の大声援を受け、注目を浴びる。屋内での交流会では他校の生徒と一緒にボール運びやデカパンリレー、ダンスをして交流を深める。

一方、部活動交流会は、バスケットボール、卓球、バドミントンがある。放課後に学校で練習してきた種

5校交流会は、今年第30回を迎える伝統イベント

鳥取県 学校超え交流、卒業後も多彩な余暇活動

目に分かれ、各学校の代表選手が出場する。本県は特別支援学校体育連盟を設立していないため、部活動での練習の成果を試す機会はこの大会が唯一となる。

また、車いすをスムーズに操作し、今年全国障害者スポーツ大会陸上競技スラロームに出場するS君（25歳）も、家族や仲間が絆を広げ、いろいろなことに挑戦している。特別支援学校在籍当時は、保護者が主体となつて週1回スポーツ教室を開催した。卒業後も余暇活動の場を広げるため、週末に福祉センターでスポーツ教室を開催。現在は母が鳥取県ふうせんバレーボール協会を立ち上げ、毎年県大会を運営している。全国大会にも出場し、27年度は準優勝した。

最近S君が興味を抱くのはウィルチェアラグビー。母曰く「子どもが頑張る姿を見て、親も頑張りたいと思う」とのこと。一人一人が余暇を充実することで、やりがいを見つけ、日々の暮らしに目標を持つことができるのではないか。

（本城睦子・鳥取県立白兎養護学校教諭）